

第 11 章 数値目標の設定と進行管理

11.1 数値目標の設定と進行管理

(1) 数値目標の設定

本計画に位置づけた目指す将来像やまちづくりの方針の実現に向けて、都市機能及び居住の誘導施策を確実に実行していくとともに、各種施策の進捗状況及びその効果を確認するため数値目標を設定し、進捗管理に努めます。

目標年次は、計画期間であるおおむね 20 年後の 2040 年（令和 22 年）としますが、必要に応じて随時、数値目標の達成状況を確認するものとします。

① 都市機能に関する目標

人口減少社会にあっても、都市機能誘導区域内においては、日常生活サービス機能の低下に陥らないよう都市機能を誘導する取組の実施・検討を図ります。

■目標 1：都市機能に関する目標

目標指標	現状値	目標値	算出方法
都市機能誘導区域内の 誘導施設数 (肱南地区、肱北地区、長浜地区の 商店街を計 3 施設として扱う)	52 施設 (2019 年) ⇒47 施設 (2025 年)	57 施設 (2040 年)	現地確認などによって 市がとりまとめる

② 居住に関する目標

人口減少社会にあっても、居住誘導区域内においては、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されることを目指し、人口減少に陥らないよう居住を誘導する取組の実施・検討を図ります。

■目標 2：居住に関する目標

目標指標	現状値	目標値	算出方法
居住誘導区域内 の人口密度	36.2 人/ha (2015 年) ⇒33.9 人/ha (2020 年)	36.2 人/ha (2040 年)	国勢調査等の統計デー タより市がとりまとめる

③ 公共交通に関する目標

支線の見直しなど、公共交通圏（駅から 800m 以内、バス停から 300m 以内、区域運行の移動手段の場合は運行区域）の人口割合を増加させる取組の実施・検討を図ります。

■目標 3：公共交通に関する目標

目標指標	現状値	目標値	算出方法
公共交通圏の人口割合（※）	78.3% (2015 年) ⇒84.5% (2020 年)	85.0% (2040 年)	運営主体への聞取によ り市内を運行する公共 交通の運行圏域を市が とりまとめる

※大洲市地域公共交通網形成計画と同様の目標指標

④ 安全・安心（都市防災の安全確保）に関する目標

居住誘導区域（大洲地域）では、1/100 規模降雨による外水氾濫や内水による床上浸水被害の発生リスクが居住誘導区域において残ることから、災害リスクの回避・軽減を図る取組を計画的に実施し、その解消を図ります。

■目標 4：安全・安心（都市防災の安全確保）に関する目標

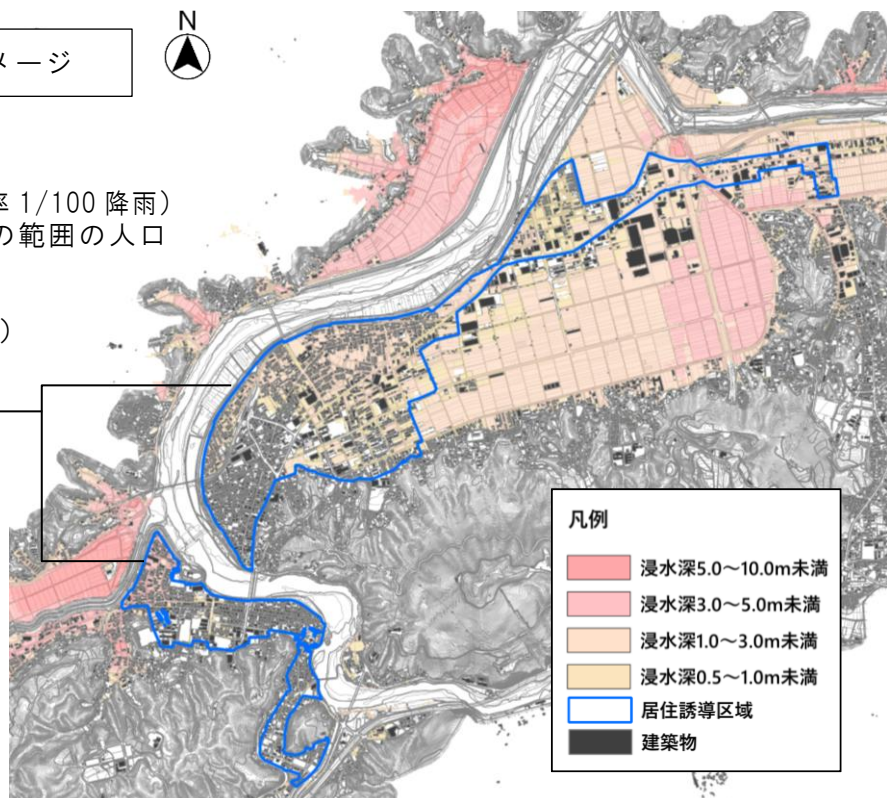
目標指標	現状値	目標値	算出方法
居住誘導区域の浸水想定（浸水深 0.5m 以上）の居住人口（※）	6,432 人 （2020 年）	0 人 （2040 年）	多段階の浸水想定区域図（1/100 規模降雨）及び国勢調査等の統計データより市がとりまとめる

※多段階の浸水想定図（内水・外水氾濫統合）の年超過確率 1/100 未満の降雨により浸水した場合に想定される浸水深 0.5m（床上浸水相当）以上の浸水が想定される範囲内の居住誘導区域人口

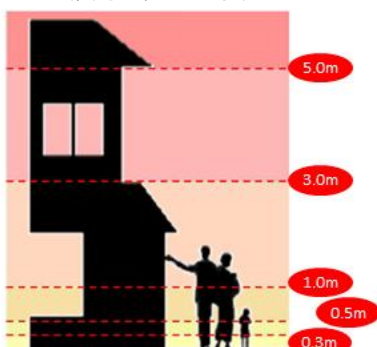
—参考図— 目標イメージ

浸水想定（年超過確率 1/100 降雨）
の浸水深 0.5m 以上の範囲の人口

6,432 人→0 人
（床上浸水被害解消）

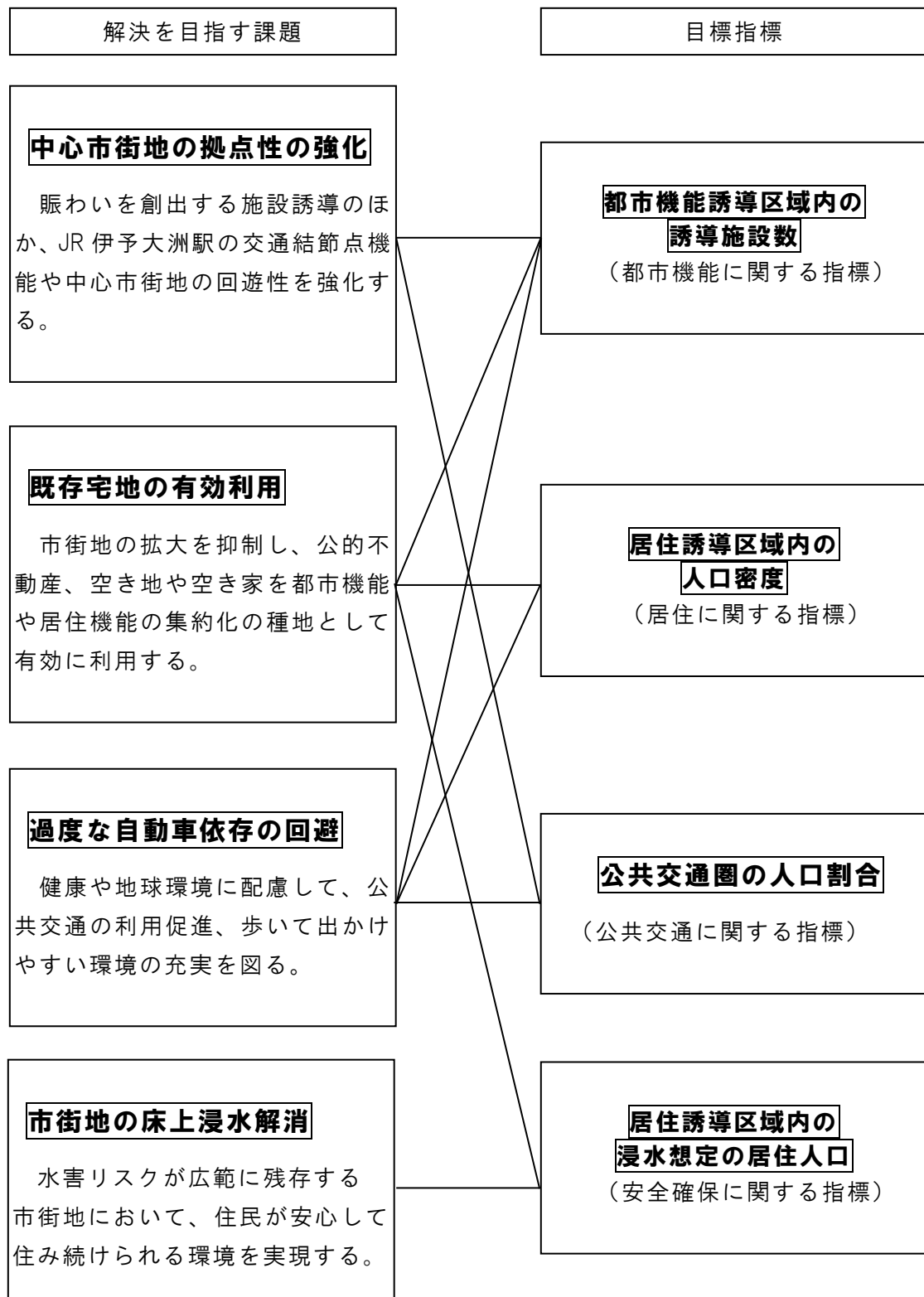


■浸水深の目安



※国管理河川以外の河川氾濫（内水氾濫等）も考慮した浸水想定図（R7 現況）【年超過確率 1/100】より作成（浸水深 0.5m 未満の浸水範囲は非表示）。

■ 解決を目指す課題と目標指標の関係性



(2) 進行管理

本計画では、「都市機能」「居住」「公共交通」「安全確保」に関する数値目標を設定し、都市づくりの基本理念や将来都市像を実現するための各種施策の進捗状況やその効果を確認することとしています。

本計画は、おおむね 20 年後の 2040 年（令和 22 年）の都市の姿を展望した長期的な計画です。そのため、以下に示す PDCA サイクルの考え方に基づき、おおむね 5 年ごとに施策や事業の実施状況について評価を行い、本計画の進捗状況や妥当性を精査、検討します。その結果を踏まえ、施策の充実や強化等を行うとともに、必要に応じて計画を改善することにより、見直しを行っていきます。

■PDCA サイクル

